



やなぎ美智子からのお便り

メールアドレス：kangoshi03@outlook.jp

やなぎ携帯：090-1508-7120

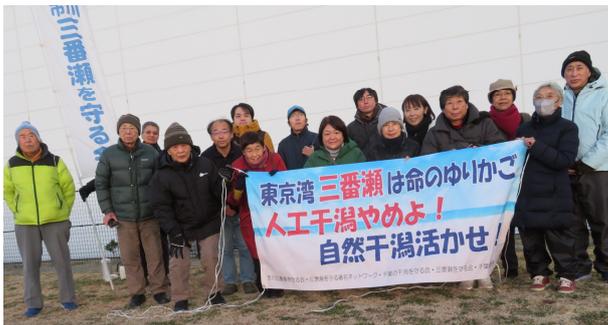
被爆80年 核兵器禁止条約に参加する政府をつくろう



塩浜2丁目階段護岸から初日の出を見る人々



昨年11月に、大洲防災公園に植樹された被爆アオギリ2世は、原爆ドームを思わせる竹の囲いで守られています。



市川三番瀬を守る会の「初日の出を見る会」

横断幕をしゃがんで手にしているのが、やなぎ

東京湾の干潟の9割はすでに埋立てられ、三番瀬の半分以上も埋め立てられました。残るわずかな自然環境で、多種多様な生き物が生息し、日本有数の渡り鳥の飛来地になっています。三番瀬の一部でもある塩浜2丁目護岸前の浅瀬に造成しようとしている人工干潟には反対します。

人工干潟造成計画の中止で、三番瀬の自然を守りましょう



1月6日撮影

「市川市核兵器廃絶平和都市宣言40年」の様々な記念事業が行われています。そのうちの一つが被爆アオギリ2世の植樹です。

1月15日、市川文化会館で、ノーベル平和賞受賞記念講演が市川市主催で行われます。授賞式で感動的なスピーチを行い、日本政府の「核抑止」を厳しく批判した日本被爆者団体協議会（日本被団協）代表委員の田中照巳さんがお話をします。

あけましておめでとございませう
参議院選挙で日本共産党の躍進、参議院でも与党の過半数
割れをめざしてがんばりましょう

無料法律相談

1月14日（火） 2月18日（火）

相談時間は一人30分 相談を希望される方は事前予約が必要です。

場所・時間は予約時にお知らせします。

市役所共産党控室か、やなぎ美智子にご連絡ください。

電話：047-334-1111（内線 18220）





12月11日 定例市議会で一般質問を行いました

〇本市の救急医療体制について (1) 救急医療体制の現状

【問】本市の救急医療体制の現状について伺います。

【答】都道府県が医療体制の計画を策定し整備を行っています。初期救急は急病診療所が、手術や入院が必要な2次救急は県知事指定の救急告示病院が、重篤患者は救命救急センターが対応しています。

【問】令和5年9月、東京ベイ浦安市川医療センターが3次救急医療機関になりました。市川総合病院など5病院の2.5次救急医療体制に変更があるのか伺います。

【答】2.5次救急医療機関は、脳血管疾患や循環器など命に関わる病気、小児科、眼科、耳鼻科など専門性の高い分野に対応し、3次救急を補完するため引き続き現在の体制維持が重要と考えています。

(2) 救命救急センターに指定された東京ベイ・浦安市川医療センターの本市との関り

【問】東京ベイ・浦安市川医療センターの、本市の救急医療体制における役割について伺います。

【答】高度救命救急センターの順天堂大学医学部付属浦安病院と共に、3次救急医療機関として広域的にかつ高度な医療提供を行います。

【要望】センターが救急、外来・入院を断らず受け入れ、これまで通りの医療が継続できるようセンターの意見を聞き、千葉県にも働きかけて頂くことを求めます。



〇公共施設のAEDについて (1) 公共施設のAED設置状況

【問】市役所第1庁舎ではAEDはどこに設置されているか伺います。

【答】職員が常駐している1階守衛室にあり、いつでも利用可能です。3階の保健医療課、4階の職員課、6階の議会事務局にもあります。

【問】第2庁舎、行徳支所、大柏出張所について伺います。

【答】案内窓口に収納BOX設置、標識表示をしています。

(2) 職員への周知

【問】職員は使用法、緊急時対応を理解されているのか伺います。

【答】消防局による普通救命講習を受講し、多くの職員がAEDを使用できると考えています。

【要望】「職員、議員がAEDが使って当然」になることを求めます。

〇本市の浸水対策について (1) 本市の想定計画降雨

【問】想定計画降雨と、その考え方について伺います。

【答】一定レベルの治水安全度確保のため、5年確率降雨の、1時間あたり最大50ミリメートル降雨に対する雨水整備を進めています。

【要望】台風で1時間あたり50ミリメートルを超える降雨記録があります。水害に強いまちづくりに向けた対策を、着実に進めて頂くことを求めます。

(2) 下水道部の構成、事務分担

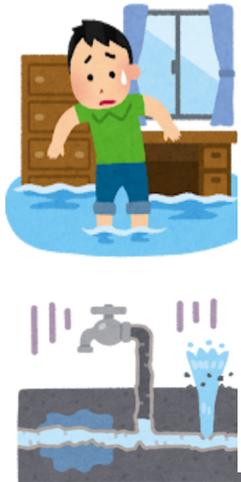
【問】部内に、河川と下水道業務が統合されている理由を伺います。

【答】業務の効率化を踏まえ、雨水対策を一元的に行うためです。

(3) 浸水対策に関する市民への周知、啓発などの取り組み

【問】市民の理解と協力を得るための取り組みを伺います。

【答】イベント開催、治水対策設備設置の費用助成をしています。



〇本市の上下水道施設の耐震化について (1) 本市の上下水道施設の耐震化の現状認識

【問】下水道施設の耐震化の現状について伺います。

【答】併用から50年以上経過し、老朽化が進行しています。令和5年度末での耐震化率は約79%です。大規模災害に備え、早期の対応が必要と認識しています。

【問】上下水道施設の耐震化の現状について伺います。

【答】浄水場、給水場、管路などの上下水道施設は千葉県企業局が管理しています。企業局が管理する給水区域全体の耐震化率を、令和元年度の約24%から、令和7年度に30%とする目標が掲げられています。令和5年度末時点での耐震化率は約28%と県より聞いています。

【要望】11月、国土交通省は能登半島地震で発生したライフラインへの甚大な被害を踏まえ、病院、避難所などに接続する上下水道の管路の耐震化の緊急点検結果を公表しました。千葉県は5%でした。本市として、国と県に財政的支援を求め、耐震化率向上に向け、早急に対策を講ずることを求めます。